



ある意味 踏ん切りがつくというか諦めがつくというか、悩みをそれ以上掘り下げて深刻になるということがない。

しかし彼は、神を善き方として信じていた人ですよ。

「善い人に悪い事が起こるのを、善き方はなぜ止めてくれないんですか」という悩みなんです。つまり、苦難そのものに苦しみを感じているだけでなく、「善い方がなぜ苦難をお許しになるのですか」という信仰的苦難。神を信じているがゆえに生まれて来る苦難・深刻な悩みです。

信仰者にとって最も苦しいのは神が見えなくなることです。

今まで信じていた神理解では乗り越えることが出来ない。神が分からなくなる。

これ以上に深刻な悩みはないと思うんですね。

なので彼は、3人の友人たちが話すのをやめても問いをやめません。納得してない。

3人の友人たちは「悪い者に良いことが起こるわけがない。善い者に悪い事が起こるわけがない。ヨブに悪い事が起こっているのは、ヨブが無意識・無自覚で罪を犯しているからだ。だから、こんな酷い目に遭ってるんだ」と言っているのですが、これは間違いです。

最後にエリフが出て来ます。エリフが言っていることは最も真理に近いけど、真理そのものではないんですね。

エリフは「ヨブが罪を犯したので悪い事が起こっているのではない。ヨブの罪のせいで苦難が起こっているのではない。が、苦難によってヨブは罪を犯している。苦難から来る行き場のない疑念によって、スタート地点からどんどんずれて行き、支離滅裂な論理で不信仰になっている」と問うて行きます。

しかし、このお説教の中にも間違いがいくつかあります。なので、人間の信仰者たちのアドバイスではもう駄目だということで、遂に最後の最後、ヨブが望んでいたことが起こるんですね。神が自らヨブの前に現れて、ヨブに説明されるんです。

ヨブは対話の中で何回も言ってます。「ああ、神が答えてくださったらどんなに良いか。だけど、そんなの無理だと分かっている。神が私の言うことに耳を傾けてくださるはずがない。耳を傾けてくださっていたとしても、私はそんなの信じられない。」

信仰が非常に苦々しいものになって不信仰になっている。なってるけど、土台は信じてるんです。

「私が信じている神なら絶対にしないような事を、なぜなさるんですか」という、信じているがゆえの悩み。「なぜ善い人に悪い事が起こるのか。神よ、説明してくれ！」

その願いが叶うのが**ヨブ記 38 章**。

**1 主は嵐の中からヨブに答えられた。**遂に神が直々に現れてくださった。

**2 「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。**

あなたはわたしに向かって糾弾するようなことを言ったが、すべてのことをよく分かった上で言ったのか。知識もないのにそう言ったのか。

神は顕現の中で、ヨブが期待していることとは違うことを言われるんですね。

ヨブが期待していたのは、“なぜ善い者に苦難が起こるのか”を説明してくださることでした。

しかし、神はその説明を一切しません。代わりに、ここから 70 以上の質問をヨブにするんです。自然界の様々な物事について、「ヨブよ、わたしにお説教するほどの知恵があるなら、当然答えることができるだろう。これ答えてごらん。」

**4 わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。分かっているなら、告げてもよ。**

**5 あなたは知っているはずだ。だれがその大きさを定め、だれがその上に測り縄を張ったかを。」**

「ヨブよ、わたしにとっては地球さえ小さな被造物にすぎない。その地球のサイズ、おまえ分かっているんだろうね。言っごらん。地球はどんな大きさですか。どんな成り立ちですか。宇宙ってどうなってますか。」

ここから 70 以上の質問が繰り返されますが、その後半は動物です。

**1 回目の神のスピーチ**の中で、12 種類の動物に関する質問が出て来ます。

**41 「鳥に餌を備えるのはだれか。鳥の子が神に向かって鳴き叫び、食物がなくてさまようときに。」**

ヨブは「小さな人間が生きようが死のうが、不幸になろうが喜ぼうが、神には些細なことで、神は私のことなんか考えてくれてない」と思っていました。

ところが、「カラスのヒナがピーピー鳴いている時、親鳥に餌を見つけさせて口まで運ばせているのはだれか。わたしだ。地球上のどの木の枝でカラスが鳴いているか、おまえは知っているか。わたしは知っている。カラスのヒナのことを忘れないわたしが、カラスよりもはるかに優れている人間を、ヨブを、どうして忘れるだろうか。あなたはわたしの被造物についても何一つ知らない。まして、神そのものを知り尽くしたとなぜ言えるのか。

ヨブよ、あなたはいつの間にか、上から目線で頭の悪いわたしに教えようとしているが、あなたはそんなに賢いのか。あなたはわたしの前で、わたしを教える教師なのか。それなら答えてごらん。」

ヨブはどの質問にも、一つも答えることが出来ませんでした。

彼は問われながら「ああ、私は無知なのに、何ということを行ったんだ」と思い至ります。

## 40 章

**1 主はヨブに答えられた。**

**2 「非難する者が全能者と争おうとするのか。神を責める者は、それに答えよ。」**

**3 ヨブは主に答えた。**

**4 「ああ、私は取るに足りない者です。あなたに何と口答えできるでしょう。私はただ手を口に当てるばかりです。黙ります。」**

**5 一度、私は語りました。もう答えません。二度、語りました。もう繰り返しません。」**

「私は口にチャックします。何も分かってないのに喋り過ぎました。無知なのに色んなことをあなたに言いました」と言いはしますが、ここに悔い改めがないんです。

「あなたの全知全能さに比べたら、私なんか何も知らないのも同然。それなのに、私はあなたに色んなことを言いました」という事実は認めていますが、「神よ、私はなんと不遜だったんでしょう」という悔い改めの祈りが出て来ない。

なので神は、悔い改めの心に行くまで付き添い、その地点まで導くために**第 2 のスピーチ**を始めます。

6 主は嵐の中からヨブに答えられた。

7 「さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。

8 あなたはわたしのさばきを無効にするつもりか。自分を義とするため、わたしを不義に定めるのか。」

そして、2種類の動物について「答えてみよ」と言われるんです。

1つ目は河馬と書いてありますが、カバではありません。ブラキオサウルスのような草食恐竜です。ヘブライ語の“ベヘーモス”をキングジェームズ訳聖書で“河馬”と訳してしまったので、現在もそのまま使っているのですが恐竜のことです。今日はその話はしません。ヨブ記の本題に行きます。

ベヘーモスとレビヤタンに関わると人間は滅びます。むちゃくちゃになります。

「そういう神が造ったものにすら立ち向かうことが出来ないのに、あなたは神に立ち向かって、どうしたんですか。」

8 あなたはわたしのさばきを無効にするつもりか。自分を義とするため、わたしを不義に定めるのか。

ヨブが原告または裁判官になって神を被告人の席に座らせ、「正義の神・愛の神なら、善い者に悪い事が起こるのをなぜ止めなかったんだ！」と叱りつけるような立場で、神にお説教してたんです。それに対して、「あなたは人であって神ではない。わたしは神であって人ではない。全知全能の神を有限の人間の能力しか持っていないあなたが、その限られた正義感や判断力で、神が間違っていると言うのは本末転倒。」

コンバージョンが必要です。つまり「ヨブよ、神と人とは対等じゃないことをわきまえなさい。あなたとわたしは対等じゃない。わたしは作者。あなたは作品。わたしは全知。あなたは無知。わたしは全能。あなたは何もできない。無能。」

ところが、自分は神に等しいという立場に立って見ると、神がすることは頭が悪い存在がしていることのように見えて来ます。それは、その人が自分を神の立場に引き上げているか、神を人間の立場に引き下げているかだから。自己中心の考えを神中心の考えにひっくり返す必要があるんですね。

ユダヤ人医者のフランクフル (1905-1997) はアウシュビッツ収容に入れられて、父と母と妻を亡くしました。著作『夜と霧』の中で、自分が強制収容所の中で経験したことをこう言っています。

「不可解な事が起こった時、私たちはつい『神よ、なぜなんだ。人生よ、なぜなんだ』と自分が問いかける者になり、神や人生を被告人の席に立たせて、叱りつけたり糾弾しようとするが、実は逆だ。苦難が起こった時、なぜなのかと問うのをやめよ。そうではなく、この苦難を通して自分自身が問われているのだと気づけ。」

この苦難に対してあなたはどうか応えていきますか。どう生きますか。これだけの経験をしたあなたは、どのような生き方を選びますか。

「私が問うんじゃなくて、私は問われている者なのだ、と立場を逆転させるのだ。」

私は家内を亡くした時、もう悲しくて悲しくて、苦しくて、体のあちこちに異常が出て来たんです。ある時、大した動きもしてないのにぎっくり腰のような状態になり、病院に担ぎ込まれてMRIを撮ったけど、どこにも悪いところがない。

「いつから痛みが出ましたか。」「9月です。」「その頃 何がありましたか。」「妻を亡くしました。」

「あなたの体の痛みは肉体の不具合に由来するのではなくメンタルに由来するものなので、鎮痛剤をお渡しすることはできますが、それだけでは駄目です。ウチの病院では診れません」と言われたんですね。

私は伝道者として、魂に悲しみがある人に福音の慰めを届ける者です。

人に対してはそのようにしているのに、自分が最愛の人を失った時、立ち上がることができない。

ある日 聖書を読んだ時、ページが真っ白になってしまったんです。これはメンタルから来ていると思いますよ。見えないんです。全盲じゃない。でも、文字が読めない。

それに、楽し気な讃美歌が大嫌いになりました。本当に心が沈んでいる時、なにか無邪気なメロディというか、ただ楽しいだけのメロディを聞くと、からかわれているような気がしたんですね。キリスト教書店のBGMで今風の楽し気な讃美歌を聞いた時、いたたまれなくなって「止めてくれませんか」と頼みました。やがて、味覚が消えたんです。何を食べても味がしない。

「お父さん、これ食べられない。さすがに塩辛すぎ。」でも、私の舌は感じない。壊れ出したんです。

「神様。私はもう悲しくて寂しくて、もう耐えられません。」

その時 ふと教えられたんですね。「もし死んだのが彼女ではなく夫の私だったら、今頃家族はどうなっていたらろう。今私が背負っているこの悲しみを、生き残っている妻が背負うことになる。」彼女は天国に行っているから今満たされている。

地上に残されている私は天国の様子がよく分からないので、ひたすら苦しい。悲しい。辛い。

「これをおまえ自身が背負うのと、おまえが愛している彼女が背負うことになるのと、どちらを選ぶ？」と主に言われた時、喜んで自分が担いたいと思いました。

それが私のターニング・ポイントになったのです。

自分中心で苦難を解釈するのではなく、私にとっての悲しみはどうかを問うのではなく、神の目で見るとどうなのかということです。善い方は良いことしかしません。神は善い方です。よく言われることですが、絨毯の模様を裏側から見ると何の柄かよく分からない。でも、表側に返すと「ああ鳥だったのか。動物が刺繍されていたのか」と分かる。

自分中心で人生の苦難を解釈すると ただただ不可解ですが、神ご自身の観点では意味があるものとされている。ただ、私たちは地上でそれを理解することはできないのです。

私は神がなさることのすべてを理解する能力がない。私が感じていることは事実ではなく、事実の一部でしかない。全知全能の神がご覧になった時 一番良いことが進んでいると信じるのです。

2 回目の神のスピーチを通してヨブは悔い改めます。その悔い改めの言葉が **42 章**。

**1 ヨブは主に答えた。**

**2 「あなたには、全てのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました。**

**5 私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。**

**6 それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で。」**

ここで初めて、ヨブは悔い改めをしています。その悔い改めは何によって起こったのか。

**5 あなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。**

あなたのことを噂で聞いていたが、今自分の目を見た。嵐の中で現れた主はおそらく第二位格。

アブラハムに旅人の姿で現れた、受肉前の神の姿だったと考えています。

ところで、ペテロはイエス様の一番弟子であるにも拘わらず、反対者たちから「おまえ、イエスの弟子だろ！」と問い詰められた時、「いやいや、あんな人知りませんよ！」と3度裏切りますよね。事前にキリストは言われました。「今日鶏が鳴く前に、あなたは3度わたしを知らないと言う。」ペテロは「私がそんなことを言うわけがない！」

しかし、実際自分の身に危険が迫る。目と鼻の先でイエスがリンチを受けている。彼の仲間だと分かれば、私も殺されるかもしれない。そう思った時、「私があんな人知らない！」と3度言ってしまった。「言ってしまった…。」その時、彼の心に悔い改めはありません。

しかしその時、イエス様が振り向いてペテロを見ます。目と目が合います。ペテロはイエス様を見た時、外に出て激しく泣いた。悔い改めたんですね。なぜ悔い改めたのか。おそらくペテロが見たイエス様は、ガッカリした顔ではなく、怒っている表情でもない。「ペテロ、ユダのように死ぬなよ。よみがえったら、いの一番であなたのところに駆けつけるから、自らを傷つけて死ぬようなことをするなよ！」

裏切られている最中でも自分に対する愛が全く変わっていないイエス様のまなざしを見た時、「なんという人を裏切ってしまったんだ！ 私が否定した方はこんなにも私を愛してくださっているのに、なんという事をしてしまったのか！」彼は砕かれたんですね。

ヨブは「私の目があなたを見ました」と言いましたが、神の姿はどうかを書いてません。書いてませんが、議論によっては絶対に屈服しなかったヨブが、姿を現した神ご自身を見た時「なんという事を言ってしまったのか！」

この激変は、「神の完全性と自分の不完全性の違いだけではなく、この神が私の苦痛を我が事のように思いやっていた方だと初めて気づいた。私は神を知っていると言っていたけど全く誤解していて、主の本当の御心については何にも分かっていなかった。それなのに、この方を被告席に座らせて散々罵って来た。なんという考え違いをしていたのか」という悔い改めだと私は考えています。

### 3番目の神のスピーチ

**10 ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元通りにされた。さらに主はヨブの財産をすべて、二倍にされた。**神は教訓だけでなく、苦難の果てに慰めを与えてくださった。

**12 主はヨブの後の半生を前の半生に増して祝福された。**

**それで彼は羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。**

苦難の前に彼が持っていた羊は7,000匹、らくだ3,000頭、牛500くびき、雌ろば500頭。

苦難の後には羊14,000匹、らくだ6,000頭、牛1,000くびき、雌ろば1,000頭。

**16 この後ヨブは百四十年生き、自分の子と、その子の子たちを四代目まで見た。**

ユダヤ教の伝承によると、ヨブが苦難を受けたのは70歳の時です。

**140年**生きたというのは、苦難前の人生の2倍生きたということ。

聖書には、苦難を受けたのは 70 歳の時とは書いてませんよ。でもユダヤ人はそう信じています。苦難の前より全部 2 倍。

### 13 また、息子七人、娘三人を持った。

息子と娘を新たに持ちますが、これは苦難の前と同じ数です。なぜ、子供たちだけは同じ数しか与えられなかったのか。失われたあの 10 人の息子・娘とは天国で合流できるからです。皆が天国で合流した時、息子・娘の数は 2 倍になっている。つまり、“この世がすべてではない” と言っているんです。この世で帳尻合わせが起こるのではなく、天国に行った時に、神は初めて帳尻合わせの答えを示してくださるんですね。

最後に 1 箇所見て終わりましょう。

#### 詩篇 131 篇

**1 主よ 私の心はおごらず 私の目は高ぶりません。**

**及びもつかない大きなことや奇しいことに 私は足を踏み入れません。**

及びもつかない大きなことや奇しいことに 私は足を踏み入れません。それは高ぶることだ。

及びもつかない大きなことや奇しいこと。それは、理由が分からない苦難の理由です。

善い人になぜ悪い事が起こるのか。その苦難の理由について私は深入りしません。その代わりに

**2 まことに私は 私のたましいを和らげ 静めました。**

**乳離れした子が 母親とともにいるように 乳離れした子のように 私のたましいは私とともにあります。**

幼い子がいじめられて「おかあさーん」と泣きついたら、お母さんはハグして「大丈夫。大丈夫やから。」何が大丈夫かよう分からん。でも、このお母さんが「大丈夫」言うてんねんやったら大丈夫やろう、ということで委ねるんです。今すぐ全部のことを分かろうとするんじゃなくて委ねるんです。

ちょうど乳離れした子をトントンとあやすように、神は苦難の中にある私たちを「大丈夫やで。大丈夫やからな。」「でも、理由を知りたいんです！」「（トントンしながら）大丈夫やから。」とうとう分からずじまいですか。いいえ。

**3 イスラエルよ 今よりとこしえまで 主を待ち望め。**

天国に行った時に初めて、すべての苦難の種明かし・解き明かしが来るんです。

今の私の頭脳では、その解き明かしを聞いても理解することが出来ない。だから、その時まで待とう。それまで、この苦難の中で、神が私に期待している生き方は何か。

それは、ヨブのように屈折して苦々しい人になるのではなく、変えられたヨブのように主に頼って、幼子が母親に甘えるように、この方の胸に抱かれながら、信頼し委ねて進んで行く人生なんですね。私にも不可解な事がありますが、それは天国に行って主が解き明かしてくださることを楽しみにしています。

皆様の上に主の祝福があることを祈っております。